

赤十字 NEWS

JUNE 2018
NO.937

6

平成30年6月1日(毎月1日発行)
赤十字新聞 第937号
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

<http://www.jrc.or.jp>

誰かのために
私にも
できること

日本赤十字社の活動は、全国約126万人のボランティアによって支えられています。
地域の防災活動から病院・社会福祉施設でのサポート、献血の広報など、
あらゆる分野で活動している日赤のボランティア。
実はとても簡単なことや、ちょっとした思いやりが人の助けになる現場がたくさんあります。
支えを必要としている誰かのために、
あなたもその「一歩」を踏み出してみませんか？

CONTENTS

FEATURE__2・3

ドキドキ体験!
みんなの
ボランティア

TOPICS__4・5

平成30年全国赤十字大会
皇后陛下より皇太子妃殿下へ
受け継がれる
「慈しみ」のこころ
「赤十字運動月間」
全国のキャンペーン活動
世界赤十字デー

AREA NEWS__6・7

福島 / 千葉 / 群馬 / 神奈川 / 福井 /
長野 / 静岡 / 京都 / 香川

Column

「健康豆知識」水虫

WORLD NEWS__8

赤十字国際委員会(ICRC)制作動画
「HOPE:彼女の命を救えなかった理由」
一枚の写真から



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室
〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
TEL: 03-3438-1311
一部 20円
赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。



みんなのボランティア

ドキドキ体験!

病院ボランティア体験
in 武蔵野赤十字病院

産着たたみ

早ワザにびっくり!?

入院中の新生児の産着をたたむ繊細な作業。初心者とは思えない働きぶりを見せていたのが、定年退職後にボランティアを始めて3カ月のSさん。

私が体験します!

初めまして。私は赤井幸子、二人の子どもを持つ40代の主婦です。子どもたちも成長して自分の時間が増えたので、困っている人や地域のお役に立ちたいと考えています。ボランティアは初めてなのでうまくできるかしらとドキドキしています!



点滴の包装袋を再利用

作業中も、和気あいあい

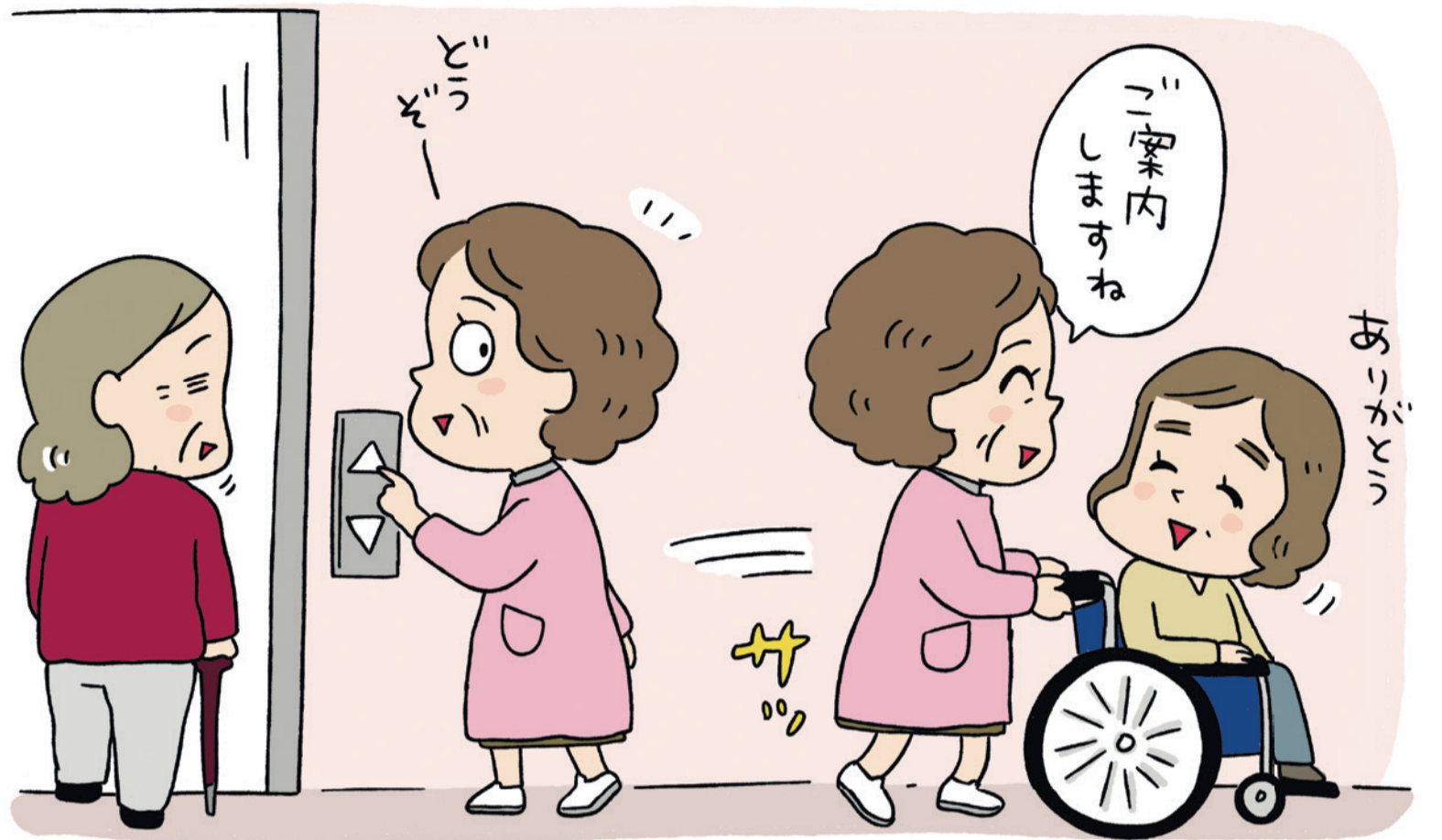
丈夫な素材でできた点滴の包装袋を汚物入れなどに再利用するためのカット作業。小さくたたんで箱詰めします。あっという間に箱がいっぱいに。みなさん、働き者です!



病院内の案内

背中にも目がついている?

病院内のエントランスやエレベーターホールで迷っている方をサポートするEさんは、同病院の元看護助手でボランティア歴も8年という超ベテラン。困っている方がいればサッと歩み寄って声を掛けます。



子どもたちに大人気

小児科のラウンジで週に1回開催している工作ボランティア。この日は「こいのぼり」がテーマ。あらかじめ簡単な作業で完成するように下準備をします。



できるコトを自分で探す!

作業が一通り終わって手が空いたら休憩タイム...ではなく、各科を回り仕事を探します。病院スタッフからも「職員の負担がどれだけ軽くなっていることか」と頼りにされているのを感じました。

★ 来月号から、「みんなのボランティア」体験レポート連載が始まります! 赤井さんの活躍をお楽しみに。

ちょこっと拝見!

赤十字ボラ

全国で約126万人ものボランティアが、さまざまな活動を行っています。その中から今回は、地域に根差した「地域赤十字奉仕団」、献血推進を行うボランティア、学生赤十字奉仕団などの活動の一部をご紹介します。

地域で赤十字ボラ



共にイキイキ、支え合える幸せ

【三重県支部 桑名でのひら奉仕団】

介護老人ホームで、レクリエーションのお手伝い、入所者の散歩や買い物の付き添いなどいろいろな活動をしています。高齢者が楽しめるオリジナルのカルタなど、アイデアや工夫満載の活動で、ホームの職員からも「園にとって欠かせない存在」と信頼されています。



作ったもので誰かを笑顔に

【大阪府支部 裁縫ボランティア】

1年を通して高齢者福祉施設や乳児院などへ寄贈するための物品を作成しています。「仲間同士励ましあっているのが楽しく、自分も幸せになれる奉仕活動」「作ったものを高齢者福祉施設などに渡して感謝された時の笑顔は忘れられない」と参加ボランティアは語ります。

献血ルームで赤十字ボラ



「人を救う」ことに直結

【全国 献血推進ボランティア】

若年層に協力を仰ぎたいと、同じ若い世代のボランティアが中心となり、献血ルーム前で呼び掛けを行っています。「命を救うことに直結するから、やりがいがある」と参加者。★献血に関するボランティアについては近隣の血液センターにお問い合わせを。

学生の赤十字ボラ



子どもたちの成長を支える喜び

【島根大学 学生赤十字奉仕団ふらす】

学生赤十字奉仕団(学奉)は全国の大学で活動中。島根大の学奉「ふらす」は月に2〜3回、20人程度が交代で乳児院を訪問し、遊び相手や行事の手伝い、乳児院へ物を寄付するためのベルマーク回収などを行っています。★同大学の学生なら誰でも参加可能です。

ボランティアに挑戦してみよう!

こちらで紹介したボランティア活動をされた方、「こんなボランティア活動できるかな?」など、お問い合わせはお住まいの地域の日赤支部まで。なお、ボランティアの活動内容や受け入れ状況は地域によって異なります。

お住まいの地域の窓口はウェブサイトでもご案内

jrc.or.jp/volunteer/search/



社会の役に立ちたいという思いがあっても、踏みだせない人も多いのでは。実は多くの方が普段の生活を送りながらボランティア活動に参加しています。東京都武蔵野市にある「武蔵野赤十字病院」には現在70人ほどのボランティアの方が在籍。基本はシフト制で週に1、2回程度、決まった曜日に活動します。午前か午後だけなど都合に合わせて調整でき、長続きしやすいとか。受付の案内、血液検査のサポート、備品整理など活動は多岐にわたります。さまざまな経歴の方がイキイキと参加されており、病院には欠かせない存在となっていました。

TOPICS

皇后陛下から皇太子妃殿下へ 受け継がれる「慈しみ」のこころ

2018年5月16日 於:明治神宮会館



皇后陛下と皇太子妃殿下 会場へ向けられた笑顔の瞬間

皇后陛下は名誉総裁として最後の式典を去る間際、大会出席者へ丁寧なごあいさつをされました。そしておもむろに後ろを振り返り、皇太子妃殿下を促すように手を差し出されました。

雅子様は驚きながらも美智子様に歩み寄ると、雅子様の腕にそっと手を添えたあと、美智子様は会場全体に笑顔をお向けになられました。雅子様もその意をくみ、共に笑顔でごあいさつをされました。美智子様は、盛大な拍手に包まれ、ゆっくりと壇上を後にされました。会場中の誰もが胸の熱くなった瞬間。平成最後となる全国赤十字大会を象徴する一幕でした。

今年も明治神宮会館で「全国赤十字大会」が開催されました。

日本赤十字社名誉総裁である皇后陛下から、事業に功績のあった個人や団体に対して有功章が授与され、日本赤十字社社長から、長年にわたり赤十字運動を支えてくださったお2人の方に表彰が行われました。

平成の活動を振り返る 記念すべき全国赤十字大会

平成30年5月16日、明治神宮会館(東京都渋谷区)において、平成30年全国赤十字大会が開催されました。

平成元年から30年間日本赤十字社名誉総裁をお務めになられた皇后陛下と、名誉副総裁である皇太子妃殿下、秋篠宮妃殿下、寛仁親王妃殿下、高円宮妃殿下がご臨席され、赤十字運動に著しい功績のあった個人や団体を表彰されました。全国から集まった会員やボランティアの代表約1900人が見守る中、皇后陛下より直接、有功章を授与されたのは、株式会社ゆで太郎システム本社など受章者代表の13人。また、今年の社長表彰受章者は2人でした。

式典では社長あいさつ(大塚副社長代読)にお

いて、世界中で地域紛争や災害が起こり、激動の世であった平成の30年を振り返り、この間、皇后陛下から賜った多くの励ましに対し感謝の意を表明。高木美智代厚生労働副大臣からは、お祝いの言葉が述べられました。

その後、2人の発表者から実践活動の報告があり、皇后陛下らは熱心に耳を傾けられていました。発表者は、海外の紛争地域での長きにわたる救護活動に対して、昨年「フローレンス・ナイチンゲール記章」を授与された看護師の伊藤明子さんと、東京都青少年赤十字のメンバーである中学生、小林正英さんです。

第二部では、「ピアノ・ソングス」と題し、歌手の岩崎宏美さんとピアニストの国府弘子さんがコンサートを開催。誰もが知るヒット曲が数多く披露され、会場は透明感のある歌声と美しいピアノの音色で満たされました。

実践活動の報告



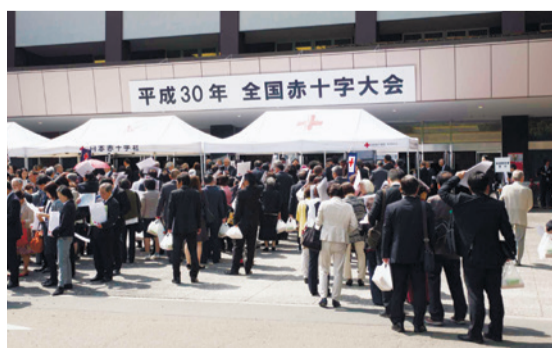
ナイチンゲール記章受章者と中学生 「国際」「地域」それぞれの赤十字運動

名古屋第二赤十字病院副院長兼看護部長の伊藤明子さんは、30年間医療救済活動に従事する中で関わった、紛争地の人々の様子について報告。「紛争の当事者ではなく、完全に中立な立場の外国人、つまり私たち赤十字が支援に入ることにより、赤十字の基本原則に則った行動ができ、そこに(赤十字の)存在意義がある」と話しました。

東京都荒川区南千住第二中学校生徒会長で、レスキュー部部長として校内外の防災活動に携わる小林正英さんは、「災害時にお年寄りや体の不自由な方へ円滑な支援を行うためには、日頃から顔見知りになっておくことが大切」と、毎月の高齢者宅への訪問など地域で行った活動を報告しました。



皇后陛下より有功章が授与されました



全国から会員、ボランティア代表など大勢が来場

「赤十字運動月間」全国のキャンペーン活動

毎年5月は、「赤十字運動月間」です。赤十字の活動をより深く理解してもらい、支援の輪を広げていただくために、全国各地でさまざまなイベントが開催されました。

高知県

華やかな運動月間啓発パレードを実施



県内赤十字3施設、奉仕団、青少年赤十字(JRC)、高知県赤十字有功会が手を携え約300人がパレードに参加し、日赤活動を県民の皆様へPRしました。高知県庁にて出発式を執り行い、土佐女子高等学校の吹奏楽部の先導によりパレードがスタート。終着点の中央公園では、JRCを中心に支援への呼び掛けが実施されました。

長野県

長野マラソン大会に赤十字 PR ブースを出展



長野県支部は、ランナー受付会場の長野市ビッグハットにおいて、救急法の講習を行ったほか、ハートラちゃんステッカーなどを配布し活動をPR。多くのランナーがステッカーを貼って競技に参加しました。

宮城県

動物園で赤十字デーイベント



宮城県支部は5月20日、八木山動物公園内の施設で、救護員なりきり体験(写真)や AED体験など親子で楽しめるイベントを開催。多くの子どもたちが参加しました。

徳島県

赤十字フラッグキャンペーン



徳島県支部は、徳島ヨットクラブの協力を得て、県庁前のヨットハーバーへ赤十字フラッグとのぼりを掲出。活動資金の必要性を広く呼びかけました。

沖縄県

「会費募集」に市長も出動!



沖縄県浦添市赤十字奉仕団は5月8日、赤十字会員増強運動スタートに合わせて「出発式」を行いました。参加した浦添市の松本市長(中央)も、赤十字の活動資金を受け取りに、奉仕団と共に出発!

世界赤十字デー

未来への希望を託して、日本中に広がる レッドライトアッププロジェクト 2018

「世界赤十字デー」の5月8日。この日を中心に、日本赤十字社では「人道」への理解を深めていただくことを目的として、「レッドライトアッププロジェクト 2018」を実施。今年も国内の歴史的建造物やランドマークとなる施設、企業さまなどにご参加をいただきました。

参加施設一覧	実施日	参加施設一覧	実施日
北海道 五稜郭タワー	5/8	長野県 安曇野赤十字病院	5/8
青森県 津軽ダム	N 5/5-6	福井県 吉岡幸テクノセンター	5/1-12
宮城県 鳴子ダム	N 5/8	藤枝市蓮華寺池公園	N 5/12
秋田県 ポートタワーセリオン	5/1-31	静岡県 藤枝市ふれあい大橋	N 5/12
山形県 山形県郷土館「文翔館」	5/7-13	愛知県 名古屋テレビ塔	5/8
山形県 月山ダム	N 5/8	元離宮二条城	5/8
福島県 三春ダム	N 5/8	京都府 京都府庁 日本館	5/8
福島県 摺上川ダム	N 5/8	舞鶴赤十字病院	5/8
群馬県 富岡製糸場	N 5/7-9	鳥取県 お城山展望台 河原城	5/8
千葉県 千葉ポートタワー	5/1-31	鳥根県 松江城	5/7-9
六本木ヒルズ	5/8	山陰中央テレビジョン	5/7-9
虎ノ門ヒルズ	5/8	広島県 広島城	N 5/8-14
表参道ヒルズ	5/8	山口県 海峽ゆめタワー	5/7-9
キティランド原宿店	5/8	三宅商事本社ビル	5/1-31
ラフォーレ原宿	5/8	松山城	5/8
富山県 インテックビル(タワー111)	5/1-8	愛媛県 いよてつ高島屋大観覧車「くるりん」	5/8
石川県 金沢城公園石川門	5/8-14	福岡県 福岡市赤煉瓦文化館	N 5/8
山梨県 甲府駅ビルセレオ甲府	5/8	佐賀県 佐賀県庁 旧館	N 5/1-11
武田信玄公像	5/8-14	長崎県 稲佐山山頂電波塔	5/8
松本城	5/8	大分県 大分城址公園 府内城跡	5/7-11
善光寺	5/8	宮崎県 宮崎県庁 本館	N 5/8-14
諏訪赤十字病院	5/8	宮崎県 宮崎山形屋	N 5/1-14
		鹿児島県 山形屋 1号館	5/1-31

天守閣再建60周年!

青森県 ● 津軽ダム

宮城県 ● 鳴子ダム

群馬県 ● 富岡製糸場

福岡県 ● 福岡市赤煉瓦文化館

広島県 ● 広島城

「世界遺産」も赤十字色に

© 東北地方整備局 鳴子ダム管理所

ライトアップの開催情報は特設サイトでも紹介しています。
http://jrc.or.jp/information/180522_005269.html



AREA NEWS

全国各地、あなたの生活のすぐそばで、日本赤十字社の活動は行われています。

福島県

思いを次世代の社会貢献へ 東邦銀行と日赤福島県支部で遺贈協定

築いた財産を遺言により第三者に譲る“遺贈”。5月2日、東邦銀行と日赤福島県支部は、北海道・東北地方で初めて、遺贈について協定を結びました。遺言信託の取り扱いを行っている東邦銀行は、遺贈を希望する方に同支部を案内。こうした地域密着型の提携により、自分の意思で遺産による社会貢献を実現したいという地域の方々のニーズにお応えして参ります。



「社会貢献への思いを形にできる有意義な提携」と東邦銀行北村頭取(右)

千葉県

赤十字ボランティアが防災指導！高校生が挑戦「炊き出し250人分」

千葉県立八千代西高校では5月2日、災害時に避難所で行われる「炊き出し」を体験するなどの、有事に役立つ防災教室を開催しました。参加した約30人の生徒たちは八千代市赤十字奉仕団(防災ボランティア)や市職員の指導を受けながら、非常食用の“ハイゼックス米”の仕込みに挑戦。炊き出し用の大きな釜で250人分もの食事を作り、被災者役の生徒へ配布しました。



「災害はいつ起こるか分からない。知識を蓄えて備えたい」と参加生徒

長野県

「下水熱」「地中熱」をフル活用！地球に優しい病院に進化中！

諏訪赤十字病院では管理棟の新設に伴い、再生可能エネルギーを活用する設備の大型工事を行いました。諏訪湖畔道路直下にある下水道から下水熱を採取するほか、病院敷地内の豊富な地中熱も活用。下水熱で約100キロワット*、地中熱で約200キロワット*が採取され、病院内の冷暖房に必要なエネルギー(年間電気使用量)の3割が賅われる予定です。



諏訪赤十字病院と、地下に地中熱設備が設置された前面道路
*常時、産出されるエネルギーの高さ

静岡県

「早くげんきになってね！」園児が手作りこいのぼりを寄贈

4月26日、青少年赤十字の加盟保育園“小百合キンダーホーム”の子どもたち12人が、病気療養中の子どもたちに元気を届けようと、手作りのこいのぼりを日赤静岡県支部へ寄贈しました。3歳児がピンク色、4歳児が青色のこいのぼりを作成。うろこ1つ1つに動物の絵が描かれ、見る人を笑顔にするこいのぼりは、静岡赤十字病院小児科病棟、小児科外来に展示されました。



33年続く活動。子どもたちの思いやりの心が育まれています

群馬県

新病院に期待、お披露目に1万人！災害医療・救急機能もパワーアップ

老朽化のため新築移転した前橋赤十字病院が6月1日に開院。4倍に拡大した敷地には民間病院で日本初となる自衛隊の大型ヘリも離着陸可能なヘリポートを完備し、生命維持装置が搭載可能な新ドクターカー(通称ECMO*カー)を導入するなど、関東近県の災害・救命救急医療の拠点として重要な役割を担います。内覧会には約1万人が来院し、期待の大きさを実感しました。



災害医療を担う「基幹災害拠点病院」として、さらに頼れる病院に！
*ECMOとは重症呼吸不全に対応する人工肺を用いた補助装置のこと

神奈川県

緊急事態にスムーズに対処しよう 大相撲巡業のAED体験に多くの参加者

藤沢市秋葉台文化体育館で4月14日、大相撲藤沢場所が開催され、会場にAED体験ブースが設置されました。藤沢市赤十字奉仕団が指導者となり、AEDの使い方を知って自信を持った救助活動ができるようにと、毎年行われています。今年は例年よりも多い総勢87人が参加。「普段から練習しておくことが大切」との声が聞かれるなど、有意義な体験となりました。



日赤神奈川県支部長でもある、黒岩神奈川県知事も体験

福井県

戦前の貴重な史料？歴史が詰まった青少年赤十字旗

日赤福井県支部に戦前の青少年赤十字の歴史を物語る古い旗が寄贈されました。寄贈した近藤信一郎さんは元教員で50年前に赴任した福井市高須城小学校の倉庫で旗を発見。右から左に横書きされた文字を見て戦前のものだと思い保管していました。同支部は来年、創立130年の節目の年。支部の歴史を語る上で貴重な史料となる同旗は今年7月25日の県支部記念大会で展示されます。



旗を寄贈した近藤さん。旗には「少年赤十字團」の鮮やかな文字

京都府

がん患者を癒やす柔らかなタオル帽子！毎年400枚を寄贈する笑顔の手作り教室

京都第一赤十字病院では、がん治療の副作用で脱毛されている人へ柔らかなタオルで作った帽子を贈ろうと、タオル帽子教室“あおぞら”が開かれています。手縫いで肌触りの良い帽子は闘病中の患者の皆さんにも大好評。開催30回目となる4月18日の教室にはがん経験者のほか、がん治療を間近に見守った経験を持つ家族など10人が参加。今後も定期的に開催予定です。



「縫製が好きなので皆と一緒に作っている時間が楽しい」と参加者

香川県

「まさか!」の時に駆け付ける災害救護のプロ、救護員任命式を実施

日赤香川県支部は4月10日、高松赤十字病院にて救護員任命式を行いました。今年度任命されたのは63人。医師、看護師から編成される救護班に加えて、薬剤師や助産師などさまざまな医療スタッフがそろい幅広い業務への対応能力を備えます。今後は実践研修、こころのケア研修など救護員の能力を高める研修を実施し、非常時に対応できる体制を強化していきます。



任命式では各々の名前が読み上げられ、代表者へ任命書が手渡された

常任理事会開催報告

平成30年5月25日、本社において平成30年度第2回の常任理事会が開催されました。今回の常任理事会は、付議事項はありませんでしたが、平成30年度赤十字運動月間における広報の取り組み状況、日本赤十字社ブランドの目標設定、日本赤十字社の中東地域支援および予算の補正にかかる4月分の社長専決事項等の決定状況について、それぞれ報告しました。

第92回代議員会開催報告

平成30年6月22日(金)、午後1時から新館が開ビル「全社協・灘尾ホール」(東京都千代田区霞が関3丁目3番2号)において第92回代議員会を開催し、下記の事項を付議いたします。

平成30年6月1日

記

- 第1号議案 役員の出選について
- 第2号議案 平成29年度事業報告及び収支決算の承認について

present プレゼント

希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。

- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨をご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字NEWS 6月号を手に入れた場所(例/献血ルーム)
- ⑥6月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか？(いくつでも)
- A.表紙 B.ドキドキ体験!みんなのボランティア C.全国赤十字大会 皇后陛下より皇太子妃殿下へ D.赤十字運動月間全国キャンペーン活動 E.世界赤十字デー-レッドライトアップ F.エアアニユース G.健康豆知識 H.プレゼント I.ワールドニュース J.1枚の写真から
- ⑦ご希望のプレゼント(A賞またはB賞)
- ⑧赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他Voice(読者の声)への投稿もお待ちしております。

郵送/〒105-8521
東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社
広報室 赤十字NEWS 6月号プレゼント係
FAX / 03-6679-0785 メール / koho@jrc.or.jp
(件名「赤十字NEWS 6月号プレゼント係」)
6月28日(木)必着

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代させていただきます ※個人情報(賞品の発送のみに使用いたします) ※ご希望賞品の記載がない場合は、東京展チケットの抽選に含めさせていただきます。

日赤のドクター&ナースが教える
知って良かった!

健康豆知識

file. 46

「もしかして水虫?」早めの受診で美足を守ろう!

岡山赤十字病院 皮膚科部長(兼)形成外科部長 妹尾 明美 (せのお あけみ)

岡山県岡山市北区青江2-1-1 TEL 086-222-8811

また、水虫には一度症状が治まっても厚くなった角質の中で菌が生き残ってしまうケースや、水虫だと思って市販薬を塗っていたら、実は違う皮膚病であるケースも。自己判断による治療の中断や、間違った薬による皮膚トラブルには気をつけましょう。

特に、糖尿病の人、高齢者、免疫が落ちている人は白癬菌に感染しやすい傾向があります。「水虫かな?」と思ったら、必ず医療機関を受診しましょう。ちなみに、これまで爪水虫は内服薬が欠かせず、他の薬を飲んでいるために治療が難しい場合がありましたが、現在は浸透性の高い塗り薬で治療できるようになりました。

乾燥肌と見分けがつかない「踵水虫(角質増殖型)」は、放置して爪水虫を招きがち。早めの受診を心掛けましょう。

NHK大河ドラマ特別展「西郷どん」開催中!

NHK大河ドラマ「西郷どん」の放送に合わせ、主人公・西郷隆盛に関連した資料や文化財を通じ、ゆかりの地の歴史や文化、歴史的な出来事を紹介する展覧会を東京、大阪、鹿児島市の3都市で開催。日赤所蔵の貴重な美術品、博愛社創設の様子を伝える油彩画「博愛社創設許可の図」、西南戦争での救護活動の様子を描いた「博愛社救護」(ともに制作年不詳)も出品されます。明治維新から150年の機に、幕末から明治にかけての激動の時代をけん引した西郷隆盛の魅力的な人物像が浮かび上がる特別展です。

主催: NHKほか

東京展 ……開催中～2018年7月16日(月・祝)

東京芸術大学美術館(台東区上野公園12-8)
午前10時から午後5時まで(入館は閉館の30分前まで)
毎週月曜休(ただし7月16日は開館)
問い合わせ▶03-5777-8600 (ハローダイヤル)
主催▶東京芸術大学、NHK、NHKプロモーション

大阪展 ……2018年7月28日(土)～9月17日(月・祝)

大阪歴史博物館(大阪市中央区大手前4-1-32)
問い合わせ▶06-6946-5728
主催▶大阪歴史博物館、NHK大阪放送局
NHKプラネット近畿、読売新聞社

鹿児島展 ……2018年9月27日(木)～11月18日(日)

鹿児島県歴史資料センター黎明館(鹿児島市城山町7-2)
問い合わせ▶099-222-5100
主催▶明治維新150周年記念黎明館企画特別展「西郷どん」実行委員会
NHK鹿児島放送局、NHKプラネット九州

博愛社救護 (制作年不詳 油彩、版画 日本赤十字社)
救護所の門にはたたくのは日の丸に
赤い横線を組み合わせた博愛社の標章

「西郷どん」プレゼント

A賞
「東京展チケット」ペア15組 (30名様)

B賞
「展覧会公式図録」3名様

見どころいっぱい!の展覧会。行って楽しむチケットと日赤所蔵美術品も掲載の展覧会公式図録のいずれかをプレゼント!

※「西郷どん東京展」は7月16日(月・祝)までの開催です。図録の発送は6月下旬を予定しております。

価格: 2300円(税別)
ページ数: 264ページ

博愛社創設許可の図 (制作年不詳 油彩、版画 日本赤十字社)

WORLD NEWS

赤十字国際委員会(ICRC)制作動画
「HOPE: 彼女の命を救えなかった理由」



病院がなくなる。希望が消える。

紛争地域で続く医療への攻撃。市民の絶望を訴える動画が世界へ発信されました。



力がなくなってきちゃった



そうか つらいな
大丈夫 もうすぐ着くから



医療支援への攻撃がやまない現実

戦闘に巻き込まれて傷を負った7歳の娘を懸命に励ます父親。激痛に耐えながら次第に意識が遠のいていく娘を車に乗せてようやく

病院に到着するとそこは——。赤十字国際委員会(ICRC)が制作した動画「HOPE: Why we can't save her life ~希望: 彼女の命を救えなかった理由~」からのワンシーンです。全1分48秒の映像は、病院や人道支援を行うスタッフへの攻撃が続く現状と、医療インフラが損なわれることで市民たちがどれほどの絶望を強いられるかを世界に伝えるために公開されました。「病院がなくなる。希望が消える。戦闘地域では毎日、医療スタッフが攻撃されています。戦争とはいえ、やりたい放題は許されない」。動画はこう締めくくられています。

紛争が続く地域では、戦闘の最前線で死亡する兵士や爆撃により命を落とす人々以外にも、攻撃によって間接的に市民たちが犠牲となっています。その一例が、長期的にも人命と生活を脅かす事態を生み出すことになる医療支援そのものへの攻撃です。負傷者を治療できないだけでなく、治療さえあれば助かるケガ人や病人たち、安全で適切なケアが必要な妊産婦たち、予防接種で助かる子どもたちの命が危険にさらされてしまうのです。

使命を全うするために 順守されるべき国際人道法

「病院や医療従事者への攻撃は、戦争犯罪である」

2016年5月3日、国連安全保障理事会は、国際社会に対して紛争下の医療行為の保護と国際人道法の順守を促す決議を全会一致で採択しました。しかし今日に至るまで、16カ国で

1200件以上もの攻撃が続いています。今年4月21日には、ICRCの職員ハンナ・ラフードがイエメンで武装した男の銃弾に倒れ亡くなりました。出身地レバノンの赤十字社で救急法のボランティアや職員として8年間働いた経験を生かし、2010年よりICRCで人道支援に従事。収容所に拘束された人々の状況を改善するために尽力してきた彼は、この日も、収容所へ向かう途中でした。故郷のベイルートで行われた葬儀には多くの関係者が参列。レバノン大統領もツイッターでハンナの死を悼み、国民名誉勲章が贈られました。

赤十字活動の根幹を成すのは、創始者アンリー・デュナンの「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」という信念です。使命を全うするためにも、医療施設や人道支援従事者への攻撃がやまない現状を見過ごすことはできません。赤十字は、この事態を憂慮し「ヘルスケア・イン・デンジャー(Health Care in Danger) ~危機に瀕した医療」と題した啓発キャンペーンを展開。仲間たちが安全に活動できるよう、国際人道法の順守を国際社会に訴え続けます。



← 2018年4月21日に37歳で亡くなったハンナ・ラフード。同じくICRCで働く妻とはイラクで出会い、2014年にがんが発覚するも闘病に打ち勝ち、のちに結婚する。前向きで、周囲を笑顔にする彼の性格は、同僚のみならず、がん闘病時に病院で出会った多くの人々に慕われていた。

動画「HOPE」は
こちらで視聴できます →



<https://youtu.be/mag-jlqeGAU>



ジンバブエの刑務所を訪問する五十嵐。足元にあるのは食料を計量する「はかり」



“収容所訪問”によって守られる「いのち」

赤十字国際委員会(ICRC)が行う活動の1つに、「収容所訪問」があります。紛争地をはじめ、世界各地の収容所や刑務所を訪問し、拘束されている人々の健康・命・尊厳を守るための提案を行います。

10年前、ジンバブエでは経済・食糧事情の急激な悪化により、刑務所内で餓死者が出る事態が発生しました。国際社会の批判を受けた同国政府は、紛争地で収容所訪問を行うノウハウや実績に期待を寄せ、ICRCの積極的な介入を許可。訪問活動が強化されました。訪問の際、ICRC職員が必ず持参するのが「はかり」です。適切な量が配給されているか、収容されている人々の目の前で食料の重さを量って見せ、確認します。他にも、水やトイレの利用、新鮮な空気や運動が保障されているかなど、彼らに直接話を聞きます。

語り◎日本赤十字社 国際部 五十嵐玲奈